

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

|               |
|---------------|
| 達成度（評価）       |
| A：十分達成できている   |
| B：おおむね達成できている |
| C：やや不十分である    |
| D：不十分である      |

|                  |  |
|------------------|--|
| 1 前年度<br>評価結果の概要 | ・国語科において「読解力を高めるための授業づくりの工夫」として、児童一人一人の「めあて(問い)」を大切にした校内研究に取り組んだ。全職員の授業公開を通して、単元・授業づくりや言語環境の在り方を検討し、成果や課題を共有しながら研究を推進することができた。このことが、児童が主体的に学び、豊かに表現できる児童の高まりに結び付いた。<br>・心の教育では、道徳の授業の充実、人権・同和教育、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等について実践してきた。このことが、児童が楽しく安心して過ごせる学校・学級づくりに寄与している。いじめ事業や不登校対策については、担当者を中心に管理職とも連携しながら組織的に対応することができた。未然防止・早期発見・早期対応・再発防止の重要性について再認識ができたことや丁寧な保護者対応の在り方について周知できたことは大きな成果である。今後も、児童にとって安心安全な学校を目指していきたい。<br>・業務改善・働き方改革については、各部会で業務内容を確認し見直しを持った業務遂行に心掛けたり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。時期によって差異はあるが、時間外在校時間が短くなっており業務改善の成果が表れてきている。今後も、各部の業務内容や学校・学年行事等について見直しを図り、改善を進めていきたい。 |
|------------------|--|

|          |   |
|----------|---|
| 2 学校教育目標 | 「笑顔いっぱい 楽しく学ぶ 鍋島っ子の育成」～つながりを大切に～<br>・主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童<br>・規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童<br>・思いやりの心をもち、自分も相手も大切にできる児童<br>・健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童 |
|----------|---|

|            |  |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | ① 校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。<br>② 鍋島スタイルや鍋島共通事項、UD教育等の取組を通して、安全で安心な学校づくりを行う。<br>③ 児童の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。 |
|------------|--|

| 重点取組内容・成果指標          |  |  |  | 中間評価   | 5 最終評価   |  |  |  | 主な担当者   |   |
|----------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|
| (1)共通評価項目            |  |  |  | 中間評価   |  | 最終評価   |  |  |   |   |
| 評価項目                 | 重点取組   | 成果指標<br>(数値目標)   | 具体的取組  | 進捗度<br>(評価)  | 進捗状況と見通し   | 達成度<br>(評価)  | 実施結果   | 学校関係者評価  |   |   |
| ●学力の向上               | 取組内容   | 取組内容   | 取組内容   |  |  |  |  | 意見や提言  |   |   |
|                      | ○活用できる力の基盤となる基礎・基本の徹底  | ○「鍋島スタイル」(学習)が「できている」と回答する児童を85%以上にする。<br>○市販テスト国語平均86点、算数平均83点以上にする。  | ・鍋島中校区の取組として「鍋島スタイル」(学習)の徹底と家庭学習時間を意識させる。できている基準を児童に提示し、その都度評価し、実践につなげる。<br>・日々、児童の実態に合わせて授業を行い、定着の低い単元や内容を把握し、習熟や授業改善に取り組む。   | A  | ・「鍋島スタイル」(学習)ができていると回答した児童は94.5%だった。その中でも「いつでも」できていると回答した児童は92%であったので、時間を守り、チャームで立派や人の話をしっかり聞くことができるように声掛けや指導を継続して行っていき、いつでもできる児童の割合を高めていきたい。<br>・市販テストにおいて全学年の平均は、国語は87.8点、算数は83.8点であった。数値目標は達成しているが、引き続き校内研究を中心として確認しやす「授業づくり」を目指し、進めていく。  | A  | ・「鍋島スタイル」(学習)ができていると回答した児童は94.5%だったことにに対し、職員アンケートで鍋島スタイルを徹底しているかの回答は、肯定的な評価をしているが95.6%だった。今後も引き続き、学習の定着が図れるよう声掛けや指導を行っていく必要がある。<br>・市販テスト全学年平均は、国語87.8点、算数84.8点であった。校内研究を中心として授業研究による基礎基本の定着を目指した結果、数値目標を達成することができた。   | A  | ・全国学力学習状況調査において、本校は県平均以上の結果であるということから、学力向上に力を入れて研究、実践を積み重ねていることが分かる。校内研究と鍋島スタイルを中心に、継続した取り組みをお願いしたい。                        |   |
|                      | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○自分や相手を大切にしている児童を90%以上にする。   | ・人と人とのつながりを意識し、一人一人の存在を認め合う姿を育て、自己肯定感を高める。<br>・人権・同和教育を教育課程に位置づけ、人権教育等の実施を通して人権感覚の豊かな心の育成を図る。  | A  | ・「自分や友達を大切にしている」にに対し肯定的に回答した児童は97.8%で目標を達成することができた。人権・同和教育やふれあい道徳の授業実践を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心が高まってきている。<br>・学校全体として、ふれあい組での遊びや活動を行い、授業では「友達タイム」の中で友達と関わり認められたいする時間を設けるなど、児童間の繋がりを大事にした活動を通して自己肯定感を高めることに結び付けている。   | A  | ・「自分や友達を大切にしている」にに対し肯定的に回答した児童は98.4%であり、前回より若干ではあるが友達や他者を尊重する気持ちが高まった。人権推進委員会の児童と共に取り組む。さらに人権意識を高めることができる教育の充実を図りたい。<br>・12月に人権教育を実施し、学年に合わせた価値観項目に含ませて差別「が」権利「が」公平などの価値について考えさせる活動を通して、児童は人権について自分の言葉で振り返ることができた。今後、児童の学びや学校や学校内で共有できる取組について検討していきたい。   | A  | ・学校教育目標に掲げられている「つながりを大切に」の実現のためにも、児童が自分も相手も大切にした生活を送ることのできる指導を継続してほしい。そのためには、通信・メール・ホームページ等を活用して家庭(保護者)への啓発も継続していかねばならない。   |   |
|                      | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実  | ○「心のカード」の記述内容をふまへ、「いじめを見たり気づいたら、止めるようにしたり大人に伝えたりして」<br>○「安心して学校に通っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。                     | ・児童用の「心のカード」を毎月実施し、担任が内容を確認する。問題事業があれば、即座に対応し、その後、教育相談担当と管理職を含め組織的にかかわり、継続的に見守る。また、不登校傾向の児童の背景や要因を職員で共有し、手立てを講じる。  | B  | ・「いじめを見たり気づいたら、止めるようにしたり大人に伝えたりして」にに対し肯定的に回答した児童は93%であり、数値目標を下回った。「安心して学校に通っている」と回答した児童は93%であった。また、職員の88%が「子ども、子ども大人とのつながりを意識し、一人一人の存在を大切にしている指導を行っている」と回答している。今後、組織的に児童に関わる取り組みを継続しながら、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていく必要がある。   | A  | ・「いじめを見たり気づいたら、止めるようにしたり大人に伝えたりして」にに対し肯定的に回答した児童は98.4%であり、前回は93%であった。また、職員の97%が「子ども、子ども大人とのつながりを意識し、一人一人の存在を大切にしている指導を行っている」と回答している。今後、心のカード等の取り組みを継続し、防犯と安全に大に貢献できる体制づくりに努め、組織的に児童に関わる取り組みを継続しながら、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていく必要がある。  | A  | ・日頃から、丁寧に対応していただき感謝している。アンケート結果の残り12%の児童は、学校での出来事を大人に話せないとも考えられる。その児童の声に耳を傾けることも必要。今後も、先生方と児童・児童と児童のつながりを大切にしたい教育活動を行ってほしい。 |   |
| ●心の教育                | ○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。                     | ●「先生はあなただけのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒85%以上<br>●○「将来の夢や目標を持っている」に「肯定的な回答をした児童生徒85%以上                           | ・毎月行う「心のカード」や、年に2回ある教育相談週間の児童への対応では、気になる点だけではなく、児童の強項や学期目標に対する肯定的な姿を認めるよう話をする。<br>・児童が書いた学期目標を評価したり、書いた内容を交差させたりして、児童が互いに認め合う場を設けることで、夢や目標を意識できるようにする。   | A  | ・「先生はあなただけのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童は87%、「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童生徒は88%と、ともに目標達成を上回った。<br>・今年度の夢や目標を持つていたと回答する児童は84%とほぼ目標に達していた。各学年で、学期初めや行事等でも目標を決め、振り返りを行うことで、自分の成長を実感するとともに、次の目標を設定することができている。今後は、夢や目標をもつていてと回答できなかった16%の子どもも進へる目標を設定する必要がある。   | A  | ・「先生はあなただけのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童は87%、「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童生徒は88%と、ともに目標達成を上回った。<br>・今年度、職員会議で児童のWell-beingの実現に向けた取り組みについて周知したり、6月・11月の教育相談週間に「ほがほがタイム」を設け、一人ひとりの肯定的な思いを引き出すようなやり取りをしたことなど、自分なりの夢や目標をもって生活することにつなげた児童が増えたのではないかと考える。   | A  | ・日頃から、先生方が児童の良さを認めて褒めることを意識した教育活動をしていることが伝わってくる。教育相談週間においても、一人一人の児童に向き合って対応されている。Well-beingの実現に向けた取組は、次年度も継続してほしい。          |   |
|                      | ○「鍋島スタイル(生活)」を中心に考え、きまりを守り、自分で正しい判断をし、行動できる児童の育成               | ○「鍋島スタイル(生活)」が「守れている」「大体守れている」と回答できるように目標をもたせる。また、全校児童で達成できている児童を90%以上にする。<br>○鍋島スタイル満点カードで9割達成できた児童を85%以上にする。 | ・「鍋島スタイル」を提示、放送するとともに、学級指導、児童会活動を通して開発的な生徒指導を展開する。問題行動等の原因、背景をさぐり、未然防止に努め、生徒指導協議会等で情報交換し、指導事項を共通理解し、全校に向けて指導していく。また、組織で早期解決、再発防止に努める。  | A  | ・「鍋島スタイル(生活)」が「守れている」「大体守れている」と回答した児童の割合は、95%であった。また、鍋島スタイル満点週間において、9割以上達成できた児童の割合は、1回目と2回目合わせて、90%であった。児童の問題行動等については、生徒指導協議会等において、引き続き職員間で連携を図り、問題の早期発見、未然防止に努める。問題等の早期発見のために、全校放送等で呼び掛けるなどして、早期解決、再発防止に努める。  | A  | ・「鍋島スタイル(生活)」が「守れている」「大体守れている」と回答した児童の割合は、95.7%であった。また、鍋島スタイル満点週間において、9割以上達成できた児童の割合は、1回目と2回目合わせて、90%であった。児童の問題行動等については、生徒指導協議会等において、引き続き職員間で連携を図り、問題の早期発見、未然防止に努める。問題等の早期発見のために、全校放送等で呼び掛けるなどして、早期解決、再発防止に努める。  | A  | ・あいさつよりも言葉遣いに関する課題があるという報告があった。児童同士がコミュニケーションをとる上で言葉遣いについては手立てを講じる必要がある。次年度に向けての取組案「(鍋島スタイル)の見直し」が提示されていたので、是非実現してほしい。      |   |
|                      | ●運動習慣の改善や定着化   | ●生活リズムを整えさせ、日常的に運動に親しむ児童を育てる。「早寝早起き朝ごはん」ができていると回答する児童を90%以上<br>○「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答する児童を80%以上にする。      | ・養護教諭、体育部が主となって望ましい生活・運動習慣を身に付けさせる指導を系統的に行う。<br>・状況に応じた感染症対策を行うとともに、外遊びの奨励、大縄大会の実施、体育(保健)の授業の工夫改善を行う。運動の面白さ、楽しさ、喜びを味わわせ、運動に親しむ児童を育成する。   | B  | ・「健康だより等で周知を行ってきたが、「早寝早起き朝ごはん」ができていると回答した児童は87.2%であり、目標に達成していない。今後も定期的に児童や保護者への周知を継続していく必要がある。<br>・「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答した児童は74.9%であり、目標に到達していない。今年度も、熱中症対策として、遊歩時間を指定したり、中絶を呼び掛けたりと工夫したため遊歩の頻度が減った。また、フリース校舎の取組により、校舎周辺の環境は狭くならないものの気温が下がったことからスポーツ・チャレンジや大縄大会等で、運動に楽しく親しむ機会を作っていくことで運動習慣を身に付けさせたい。       | B  | ・「健康だよりや各学年等で周知を行ってきたが、「早寝早起き朝ごはん」ができていると回答した児童は84.9%であり、前回より2.3%減少し、目標に達成していない。今後も児童や保護者、および生活習慣を育むことの大切さの周知と協力のお願いを継続していく必要がある。<br>・「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答した児童は81.3%であり、前回より4.8%増加し目標に到達した。仮設校舎の工事の関係で遊ぶ場所が狭くなった期間があったものの、スポーツ・チャレンジや大縄大会に向けて、外遊び時間を設定し、運動に楽しく親しむ機会を作ったことで、運動習慣や身体を動かすことが好きだと回答した児童が増加したと考える。 | B  | ・学校で取り組まれていることは、基本的な生活習慣を身に付けさせるために大切なことである。健康な体づくりについては、今後も継続した指導をしてほしい。各家庭との連携や周知も必要と思われるが、粘り強く取り組んでもらいたい。                |   |
|                      | ●健康・体づくり   | ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成   | ●年間を通じて給食指導・食育を行い、食べ物に対する興味と望ましい食習慣、食べ方について学ばせる。「健康に良い食事をしている」と回答する児童を90%以上にする。  | ・栄養教諭と担任が連携し食育の充実を図る。年に1回以上、授業において食に関する内容を発達段階や、児童の実態に応じて実施する。 | A  | ・給食時間は決まりやマナーを守って食べていると答えた児童は97%、職員も食育の充実を図っていると答えた人は100%であった。給食時間の指導はこれからも継続して行っていく。「健康に良い食事をしている」の成果指標については、2学期以降の担任教諭と栄養教諭の食育の授業を通して評価する。 | A  | ・食の調査(1年次)において「健康に良い食事をしている」と回答した児童は94.2%、学校評価アンケートにおいて給食時間は決まりやマナーを守って食べている児童は97%、職員も食育の充実を図っていると答えた人は95.6%であった。これからは給食の時間中に指導を行っていく。<br>・担任教諭と栄養教諭による食に関する学級活動を実施することができた。授業アンケートの「食育は児童の成長に貢献している」と回答した児童の割合は88%であった。家庭への周知に関する指導の充実も続けていきたい。 | A   | ・食育については、今後も力を入れて指導してほしい。各家庭での指導も必要になってくると思う。学校から継続した食育に関する情報を発信し啓発してもらいたい。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進   | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減  | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。<br>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上   | ・毎週金曜日の定時退勤日、第三金曜日のスーパー定時退勤日を可視化し、取組に対して安全衛生委員会等で全職員が意識し、達成を目指す。<br>・安全衛生委員会、心身の健康のためにも積極的な年次休暇取得を周知する。また、長期休業中の研修計画を工夫し、連続した年次休暇取得を可能にする。   | B  | ・年度当初から、定時退勤日と退勤時刻を周知してきている。定時退勤日を意識し時間外在校等時間45時間以内であった職員は全体で92%であった。年次休暇取得については、9月末で10日以上の取得率は、57.4%であった。今後も、安全衛生委員会において心身の健康管理や職務遂行に関して、産業医の話を伝えたりToDoリストを活用を推進していきたい。   | B  | ・「時間外在校等時間45時間以内であった職員は全体で98.9%で目標を達成できなかった。しかし、月毎の平均では昨年度より減少している。年次の取得については、14日以上もしくは昨年度より多く取得している職員が92.2%となった。安全衛生委員会を通して、月45時間以内の推移を周知したことで定時退勤日の意識化を図ってきたことが意識向上に結び付けてきていると考える。   | B  | ・学校での働き方改革が前進していることを知った。1日の業務や1年間の業務等を見直すことで、更に改革が進められると思う。この働き方改革と児童・保護者対応を考えると難しい面もあると思うが、今後も粘り強く働き方改革を推進してほしい。           |   |
|                      | ○業務の効率化の推進   | ○個人では業務のゴールと優先順位、組織としては、行事の精選と業務の縮減に取り組み、効率化が進んだという職員を80%にする。  | ・短期、中期、長期毎に業務の内容を見通した準備と計画を立て、各学年や部内で可視化する。教育効果を優先に考え行事の削減、縮小を行う。  | A  | ・各部署での取組を月1回の部会で業務内容に見通しを持って行うこと工夫し、組織での対応が進んできたこと、業務の可視化による効率化が、業務改善の一助となった。業務縮減を図ることができたと感じる職員は39.1%であった。  | A  | ・業務改善への意識を高めることができたと感じる職員は80%で目標を達成できなかった。各部署の業務内容を見直し、ToDoリストを活用し計画的に業務を進めてきたことが成果を上げている。行事等の教育効果を重視し目的を明確にした結果、業務内容を見直すことができた。   | A  | ・業務の効率化が進められ、先生方の業務改善の意識が高まっていると感じる。まだまだ課題が多いと思うが、今後は、地域や外部機関との連携も視野に入れ、学校の負担軽減できるような取組をしていく必要がある。                          |   |
|                      | ●教職員の特別支援教育のスキルアップと校内支援体制の確立                                   | ○「支援を要する児童に適切な対応をとるよう努めている」と回答する教職員を90%以上にする。  | ・支援を必要としている児童に対して、必要に応じてケース会議を設定し、具体的な支援方法と短期・長期目標を決定する。<br>・外部専門家との連携を密に行うとともに、配慮・支援を要する子どもに対する研修を実施する。   | A  | ・「適切に対応している」と肯定的に回答している職員は93.3%であった。今後も必要に応じて随時ケース会議を実施し、支援体制の充実を図る。<br>・外部専門家との連携、研修会を実施した。職員の指導力向上のための研修会制を充実していく。   | A  | ・支援会議、外部との連携など随時行い、90%が配慮したと回答し、目標は達成した。<br>・児童の適切な把握、めあての設定、より有効な支援ができるように、今後も職員の力量を高めていくための研修・研鑽を継続する。   | A  | ・児童のための支援会議を開催され、特別支援学級、通常学級どちらにも対応できるような丁寧な対応策が講じられている。新1年生も含め、今後も児童の成長のために、幼保ここの連携を強化していきたい。                              |   |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |
| 評価項目                 | 重点取組内容   | 成果指標<br>(数値目標)   | 具体的取組  | 進捗度<br>(評価)  | 進捗状況と見通し   | 達成度<br>(評価)  | 実施結果   | 学校関係者評価  | 主な担当者   |   |
| ○危機管理体制の強化と対応能力の育成   | ○家庭と連携した防災教育・安全教育の充実   | ○「災害が起きた時に自分の身を守る」ことができる」と回答する児童を95%以上にする。<br>○自転車のヘルメット着用率を90%以上にする。  | ・年度はじめに避難の仕方や避難経路を伝え、職員の指導力向上を図るとともに、児童にも朝タム等で指導する時間を確保し、不測の事態への対応を想像させる。各訓練は、実際に動きの確認をし、対応力を身に付けさせる。<br>・「道路交通法の一部改正(令和5年4月1日施行)」により、全ての自転車利用者に対し、乗車中ヘルメット着用努力義務が課せられることと、正しい乗り方についての指導内容等を各種便りに家庭に広める。 | A  | ・避難訓練等、防災についての学習を通して、96%の児童が自分の身の守り方を知っているに回答していた。今後は、2学期以降の学習を経て防災意識を高めていきたい。<br>・4月に交通安全教室を実施し、1年生は歩行実技、2年生～6年生は交通安全教育の動画視聴をし、安全な生活についての学習した。ヘルメット着用率については、「できていない」71%、「大体できていない」13%、「自転車で乗っている」12%という結果となり目標を達成できたといえる。今後も引き続き、通学路歩行、自転車の乗り方、ヘルメット着用の大切さを指導していく。また、指導内容のお便りや長期休み前に家庭へ向け配布し、安全教室について理解と協力を求めた。 | B  | ・不事者対応避難訓練や地震火災避難訓練を通して、「災害時に自分の身を守る」ことができる。」と回答した児童は、97%であり、数値目標を上回ることができた。今後も繰り返し、防災意識を高めるための指導を継続していく。<br>・自転車の乗り方では、児童のヘルメットの着用率が98%という結果となり、数値目標を上回った。しかし、実態としてはヘルメットを着用していない児童が多々見られる。安全に対する意識が向上してきている児童もいるが、今後も身を守るための安全指導を徹底していかなければならない。   | B  | ・危機管理上、児童の命を守るためにも計画的な訓練を継続して実施してほしい。自転車のヘルメット着用については、事故が起きないように、地域やPTAからも気付いた時には声掛けをするような働きかけをしていきたい。                      |   |

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| ●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育 | ・校内研究において、「算数科における授業づくりの工夫」に取り組んだ。見直しをもたせ、数学的な見方や考え方を働かせながら学ぶ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた学習活動に重点を置き、全職員の授業公開を通して、単元・授業づくりや学びの場の在り方を検討し、成果や課題を共有しながら研究を推進することができた。このことが、児童が主体的・対話的に学ぶ児童の育成に結び付いた。今後は、学習環境の充実を図るように計画をしている。<br>・心の教育では、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修、道徳の授業の充実、人権・同和教育等について全職員の共通理解の下に実践してきた。このことが、児童が楽しく安心して過ごせる学校・学級づくりに生かされた。いじめ事業や不登校対策については、担当者を中心に管理職とも連携しながら組織的に対応することができた。しかし、事業の要因は主に「言葉遣い」であり、学校全体で継続した「言葉遣い」改善の指導をしていくことが未然防止につながると思う。生徒指導担当や学年主任を中心に、今後も、児童にとって安心安全な学校を目指していきたい。<br>・業務改善・働き方改革については、学年で共有する教材を確認したり、各部会で業務内容について見直しを持った業務遂行に心掛けたりと改善に取り組んできた。時期によって差異はあるが、時間外在校時間が減少しており業務改善の成果が少しづつ表れてきている。今後も、職員の意見も取り入れながら小さなことから業務や行事等の在り方について見直しを図り、改善を進めていきたい。 |
| 5 総合評価・次年度への展望                  |  |